

会告 V

1999年9月7日

第3回認定試験結果

認定輸血検査技師制度協議会
協議会会長 湯浅晋治
協議会会長 田村 眞
試験委員長 大戸 斉

1999年8月21日～22日に関西医大で行われた第3回認定試験は以下の通りである。

1. 試験の概要

受験申請者	203名
講習会欠席	2名
試験当日欠席	2名
受験者数	199名

筆答試験は概ねよくできていた
実技は特に血液型、不規則抗体では個人間の実力差が大きかった。

A. 筆答試験

レポート加味後の点数

最高	94.4
最低	46.9
平均	75.0

70点以上は 148名(74%)であった。

B. 実技試験

1) 血液型 [60点]

最高	60
最低	-53
平均	38.8

検体取り違いや、単純検体のミス (A型をO型など) は大きく減点 (-50点) した。16人がこれに該当した。

指示書に従って検査しない(ガラス板法の省略など)、試薬滴数などを指示書通りにしない、試験管に番号など記載しない、検査の判定ミス、結果の解釈が正しくできないなども減点した。

2) 不規則抗体 [35点]

最高	35
最低	-20
平均	22.0

検体取り違いや、単純検体のミス(抗体無しを有りなど) は大きく減点 (-30点) した。16人が該当した。

検体や試薬の滴数を指示書通りにしない、試験管に番号など記載しない、検査の判定ミス、結果の解釈ができないなども減点した。

不規則抗体同定の原則が理解できていないと思われる受験生が多かった。

- 3) 血小板抗体〔10点〕 最高 10
 最低 2.1
 平均 8.9

一部の受験生を除き、概ねよくできていた。

- 4) 実技試験合計〔100点満点に換算〕
 最高 98.1
 最低 - 29.6
 平均 66.3

70点以上は107名(54%)にとどまった。

C. 総合判定

筆答試験と実技試験をともに合格した者は101名(51%)であった。

2. 試験の基本方針

- 1) 試験委員は公正であることを心がけ、決して試験内容に関する情報が漏洩しないようにした。
 - ・電話でのやり取りに細心の注意を払った
 - ・受験生の研修にタッチしないようにした
 - ・他分野の試験内容は互いにわからないようにして準備した

- 2) 公平であることを貫き、試験会場に近い大阪近辺の受験生が有利になることは無いように配慮した。
 - ・大阪府内からの試験評価委員は極力少なくした
 - ・受験生と評価委員は同一県内が当たらないようにした
 - ・実技問題は同水準の難易度の検体が組み合わさるようにした
 - ・遠心機の性能など、繰り返し予行演習をして確かめた
 - ・いわゆる“引っ掛け問題”は極力避け、実力が反映されるように工夫した

- 3) 敏速であることを目指し、試験期間中に主な評点作業を終了した。